

国際的観点から見た日本経済の 今後の課題

ブラジル日本商工会議所
2012年6月15日

在ブラジル日本国大使館公使
西島章次

目次

- (1) 日本経済の現状
- (2) 貿易と直接投資における課題
- (3) ブラジルへのインプリケーション

(1) 日本経済の現状

1990年代からの傾向的な経済停滞

- * 世界の名目GDPに占めるわが国の比率
1994年の17%強→2010年の8%前後
- * 一人当たりの名目GDP
2000年の3位から2010年の14位後退

日本の基本的問題

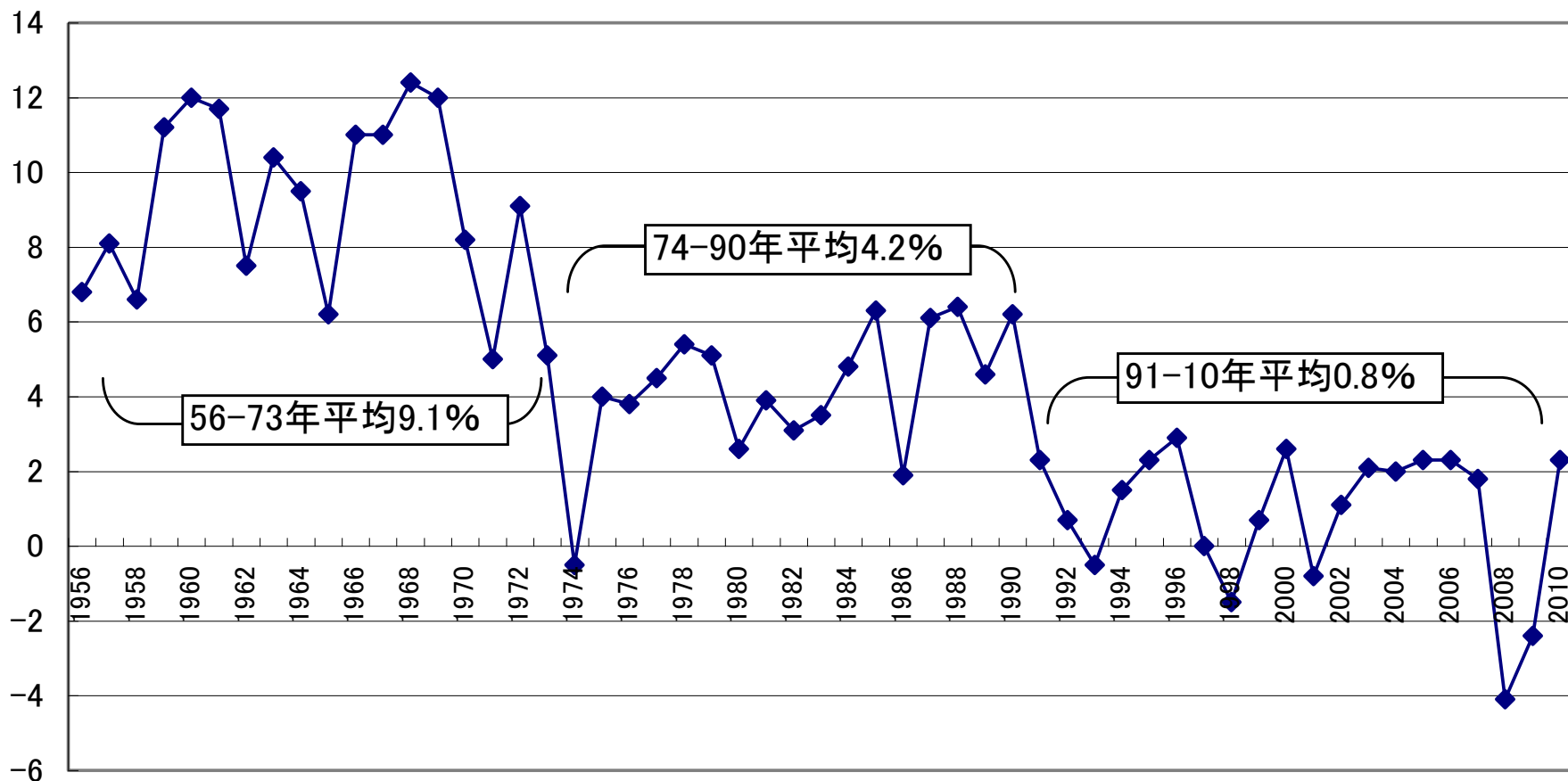
国内的要因

少子高齢化の進展
労働生産性の低迷
ひっ迫する政府財政

対外的要因

国際競争力の低下
少ない直接投資流入

図1 実質GDP成長率



出所:内閣府SNAサイト

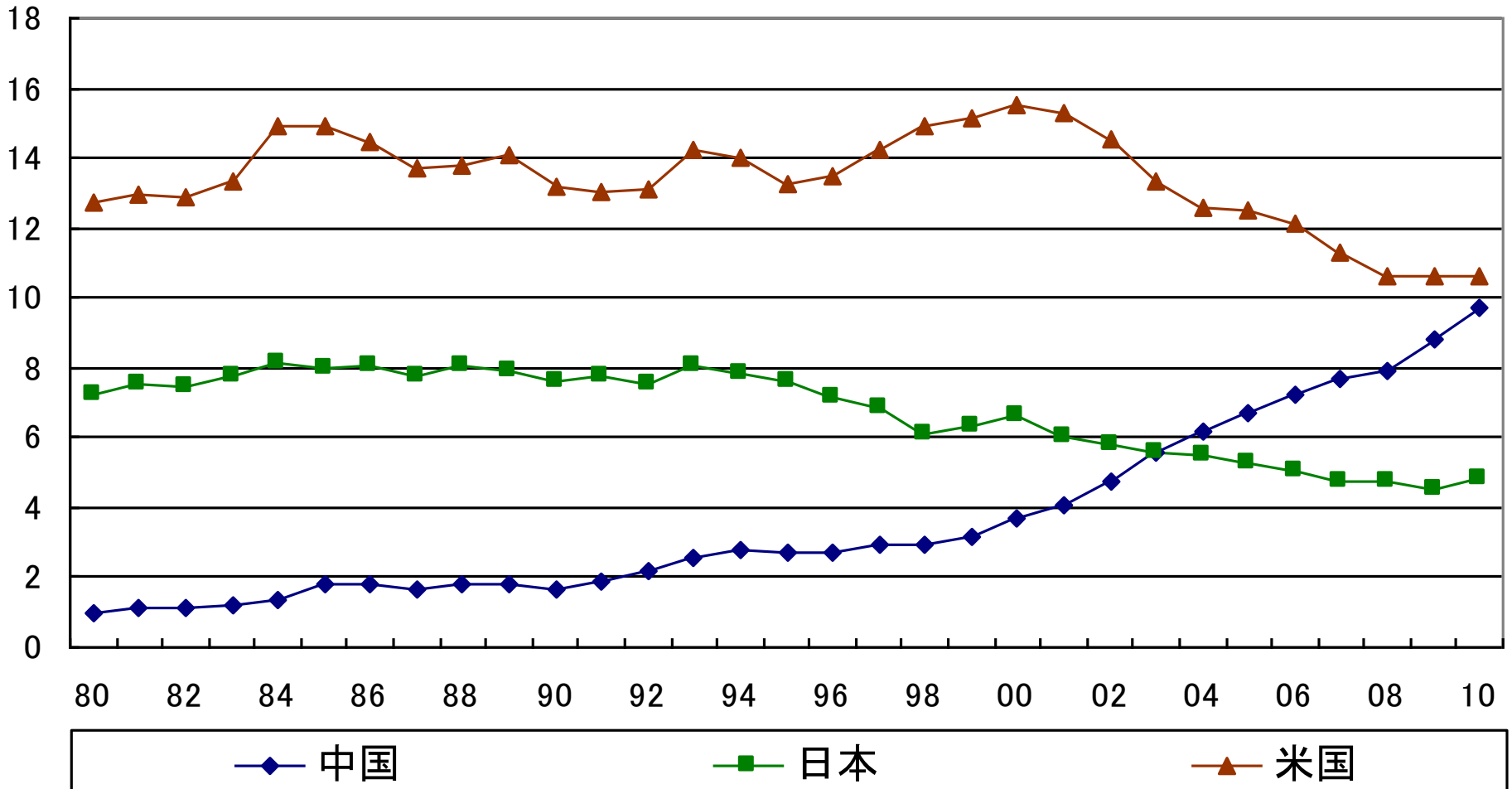
労働生産性・国際競争力

- わが国の労働生産性の国際ランキング
OECD「労働生産性の国際比較」
2009年は20位
2010年は22位
(1位はルクセンブルグ、2位はノルウェー
3位は米国)
- スイスのビジネススクール(IMD、国際経営開発研究所)(World Competitiveness Yearbook 2012「世界競争力年報2012」)
1990年～96年には4位以内
2000年代に入ってから、15位～25位
2011年は26位
2012年は27位(ブラジル46位)

わが国の貿易の推移

- 世界貿易に占めるシェア(図)
80年に7.2%、2010年には4.8%、中国(1.0%→9.4%)
- 課題:
 - 比較優位構造の絶えざる高度化
 - 中間財・部品輸出へのシフト (*)
 - 輸出先・地域多様化
 - 資源・エネルギー輸入における脆弱性低減
 - 輸入比率は拡大傾向
 - 国際価格の高騰
 - 供給国の偏向
 - 資源・エネルギーの安定的供給確保
 - 省資源型の産業構造への転換

世界貿易に占めるシェア (%)

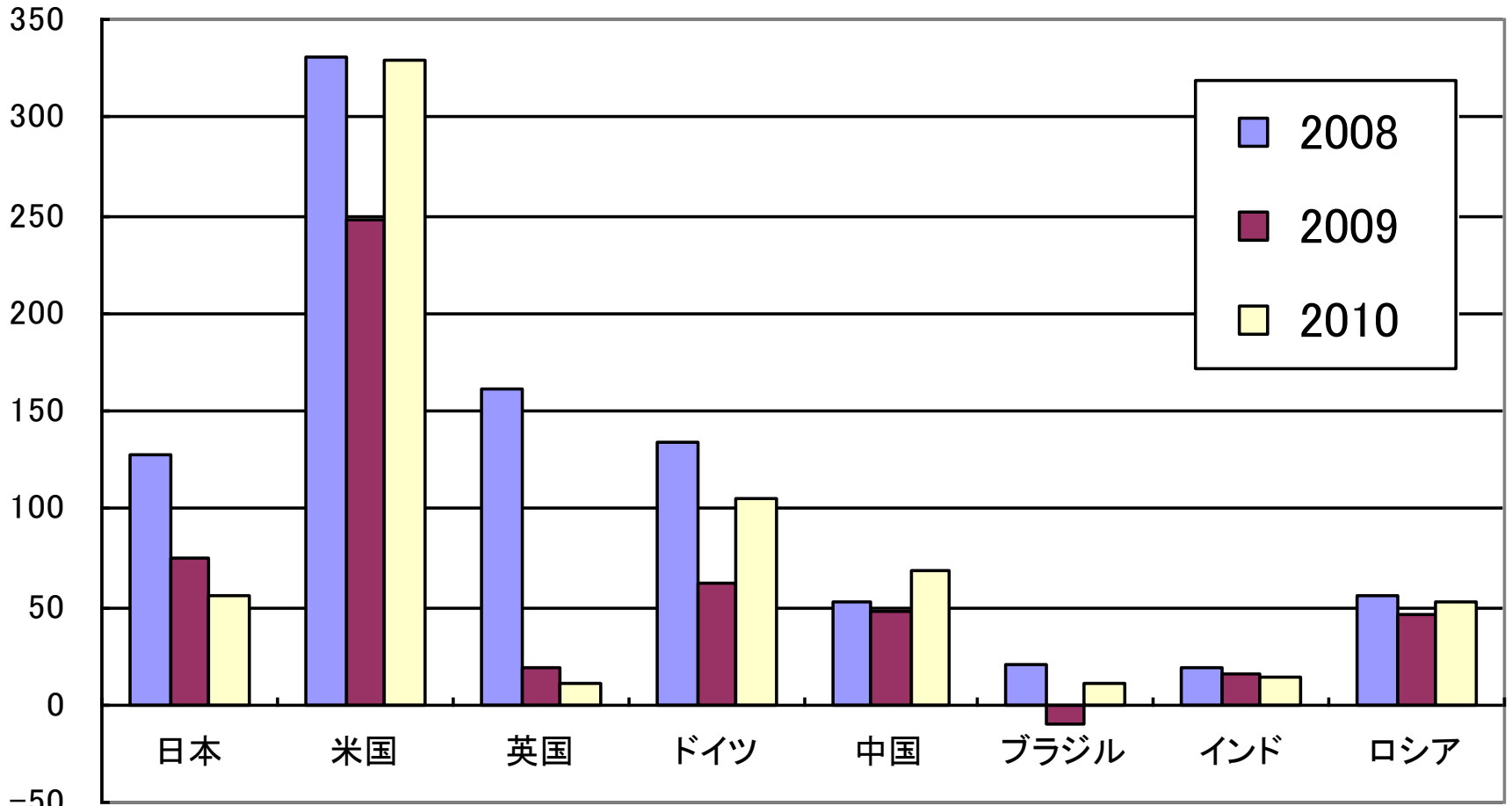


出所: IMF, Direction of Trade

対外直接投資

- わが国の対外直接投資は、米国、英国、ドイツに及ばず、グローバル化を十分に享受していない
- インフラ、金融、通信などサービス部門における日本企業の競争力不足や、M&Aに不慣れが背景
- しかし、新興諸国への進出が必須
急成長する国内市場の確保
円高のメリット
国際的な生産ネットワークの拡充
- だが、受け入れ国の事情に応じた戦略が必要**(2)**
- 他方、直接投資は、国内の産業構造の空洞化をもたらし、雇用機会を漏出させる可能性。
- 2011年は1150億ドルへ急増。

対外直接投資（10億ドル）

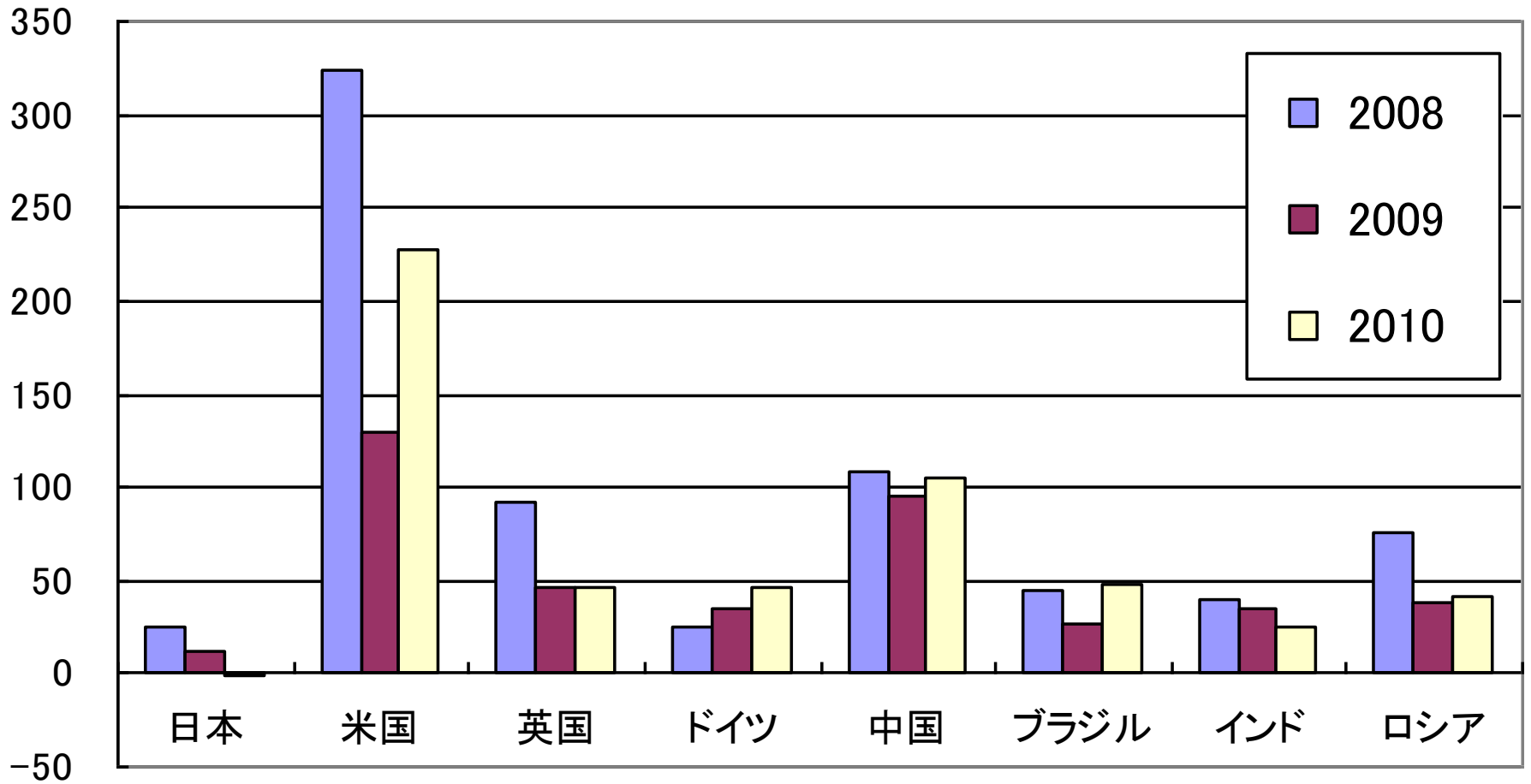


出所: UNCTAD, FDI Statistics.

対内直接投資

- 日本への対内直接投資は欧米諸国や新興諸国と比較して、極端に少ない。(株式市場における外資企業の公開: NY市場900社、ロンドン601社、シンガポール312社、東京14社)。
- しかも、2008年以降は低下を続け、2010年は純流出(-13億ドル)。2011年も、東日本大震災の影響もあり純流失(-13億ドル)。
- 多くの諸国が直接投資によって、資本、技術、経営ノウハウなどを積極的に導入し、経済の成長力を高めている。空洞化への重要な対処。
- 日本経済が、海外企業の受け入れに対し依然として様々な意味で閉鎖的であり、また、日本独特な商慣行などを有していることから、外国の企業にとれば、日本市場は魅力に欠けると判断→法人税の実行税率の引き下げ、規制緩和が必要

対内直接投資（10億ドル）

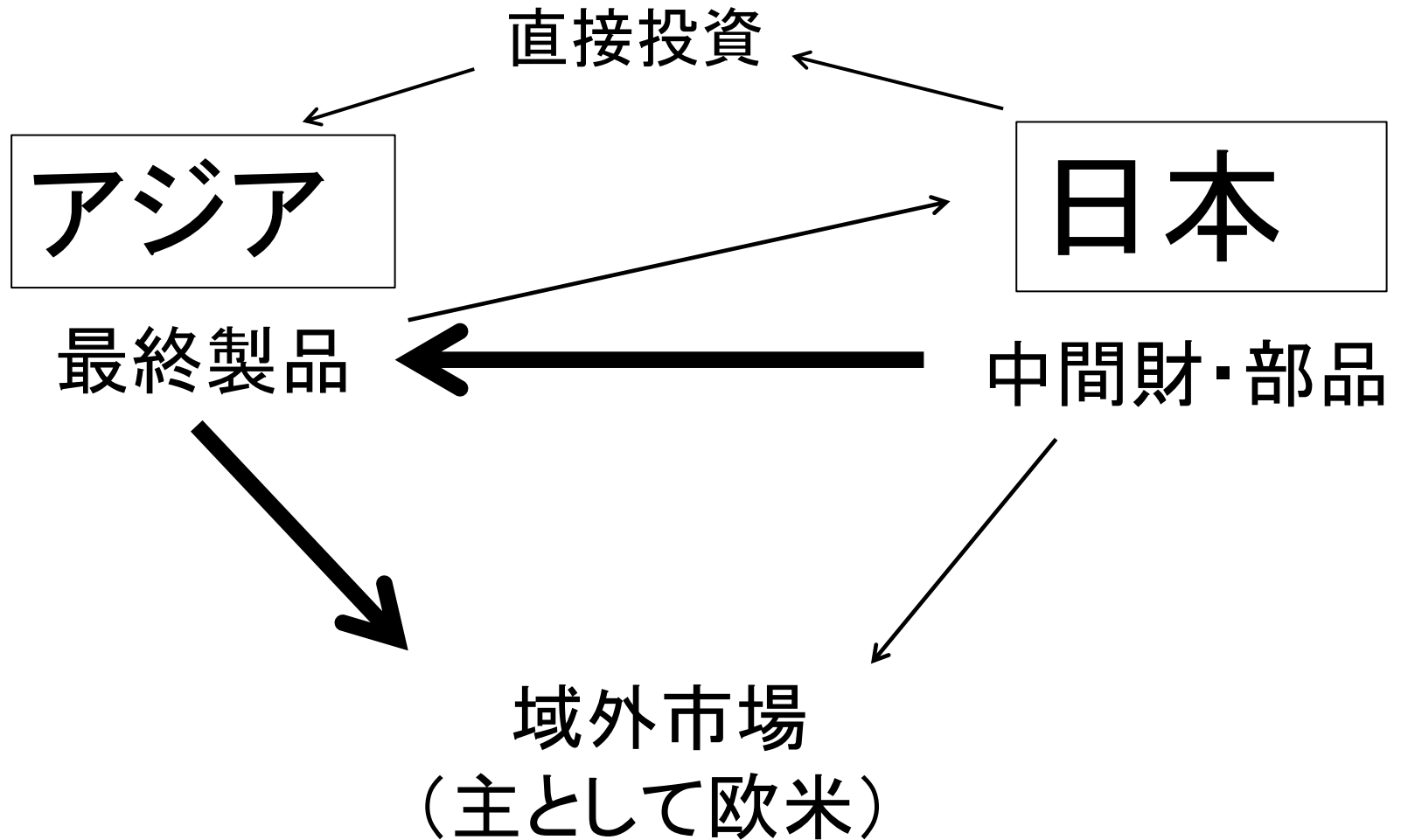


出所: UNCTAD, FDI Statistics.

(2)貿易と直接投資における課題

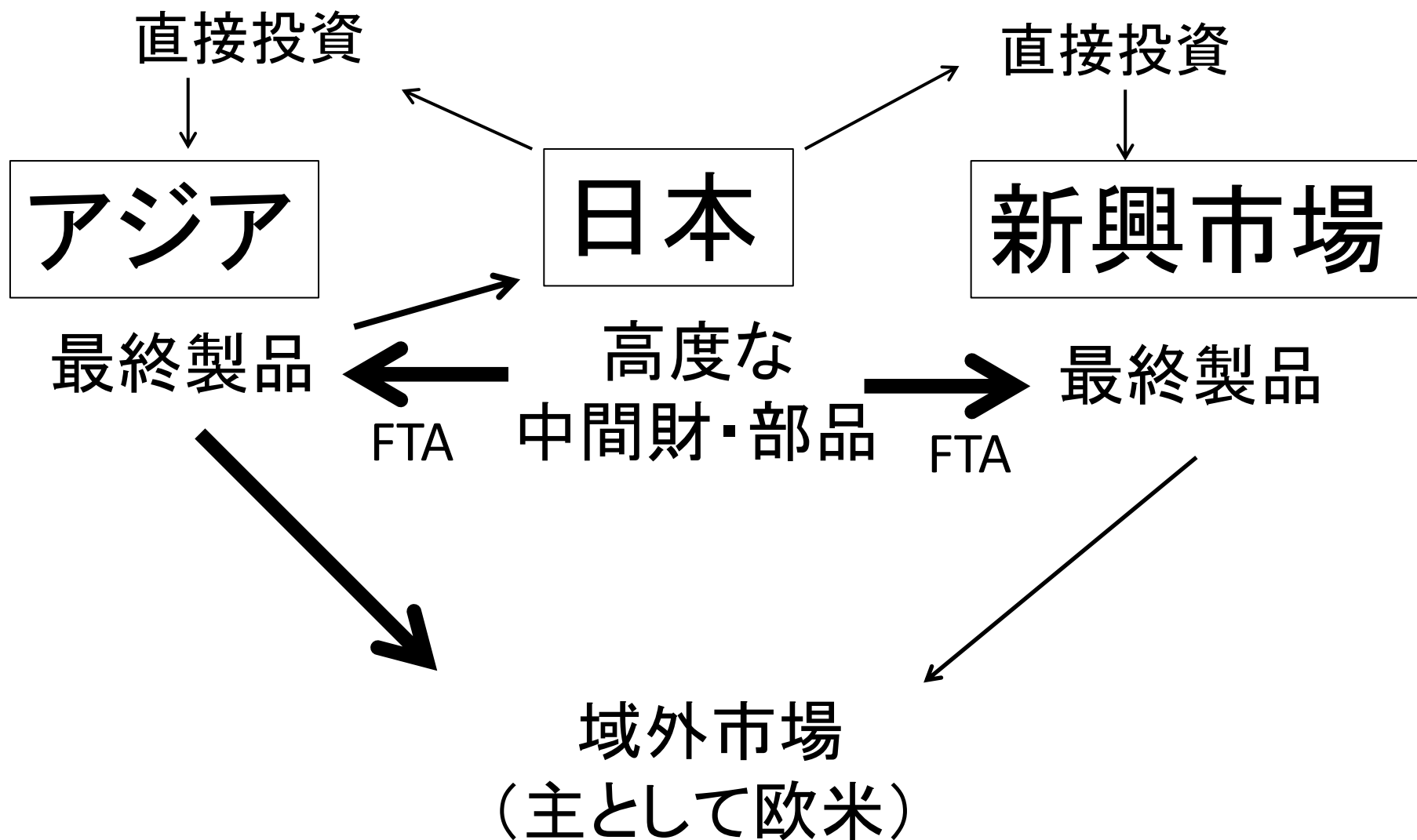
- 1985年以降、対東アジアへの輸出は年平均9.7%で増加。その他世界への輸出は2.7%。
- 対東アジアへの輸出を牽引したのは中間財・部品・加工品。
- 背景に東アジアへの直接投資による生産ネットワークの拡大。日本と東アジア諸国との間で生産工程内分業が拡大。結果、中間財・部品の生産を日本で、組み立てをアジアでというパターンが成立。
- 神戸大学浜口伸明教授「日本企業のグローバル化と新興国市場」神戸大学経済経営研究所年報第61号(2012)参照

工程間分業モデル



- 日本では、高度な中間財・素材の生産の集積が存在するので、これらの財の生産がロックインされているとされる
- しかし、今後も中間財・部品の生産が日本に留まる保証はない
 - * アジアの最終生産工程の集積化
 - * 円高の進展
 - * 東日本大震災がもたらしたサプライチェーン分断による分散立地への要請
 - * 電力供給問題の存在
- 他方で、日本の終組み立て産業の競争力は失われつつある
- アジア以外の新興諸国での生産ネットワークの構築と、そのための直接投資の拡大必要。
(トヨタ自動車の戦略)

新興国市場を考慮した貿易構造



(3) ブラジルへのインプリケーション

- ブラジルで日本を拠点とするサプライチェーンを創設しうるか
 - * 距離の問題
 - * インフラなどの効率性の問題
 - * 国産化比率などの障壁の問題
- まずは生産拠点のための直接投資必要。短期的には難しいであろうが、中長期的にはブラジルが輸出基地となる可能性。
- しかし、以下が条件
 - インフラ改善 (PAC・・・)
 - メルコスルとの貿易協定

ブラジルへの直接投資における経営戦略

- 遅れている変化への認識
1980年代の苦い経験
バスに乗り遅れている状況
- ブラジル進出には戦略構築が必要
長期的なタイムスパンを持つこと
現地の商慣行の熟知
徹底した現地化
借り入れに依存しない十分な自己資本
現地での採算重視・現地通貨での利益重視
リスクへの危機管理能力と情報網
適切なパートナーとの関係
より大きな投資規模
圧倒的技術的優位性の必要性
- 日系社会の活用

ご静聴ありがとうございました。